

# 閉校舎を観光施設に… 地域課題解決へ提案

## 能代高、「探究活動」発表会



観光をテーマに発表する生徒たち

地域課題の解決を目指す「探究活動」に取り組む能代高校（京久夫校長）の生徒による成果発表会が19日、能代市の同校で開かれた。1年生約220人が観光や農業など5分野について、専門家の助言を得て進めた調査を基に振興策を提案した。

同校は県教育庁が指定する

2017、18年度の探究活動

のモデル校。生徒は総合的な学習の時間を使い、能代市役所や県内の大学教授などに支援してもらいながら観光、農業、環境・エネルギー、まちづくり、健康福祉の5分野について調べた。

県北地域の高校教員や県教

育庁の担当者ら約20人が出席。生徒が6、7人ほどの班に分かれて発表した。

来春閉校する鶴形小学校の校舎を観光施設にする案を披露した班は、群馬県と同様の施設に電話で話を聞き、改修や維持に必要な経費を例示した。給食の提供や郷土食作り、伝統芸能体験を売りにしたツアーを提案し「鶴形小を観光客の第二のふるさとにした

い」と述べた。

探究活動を充実させるため、能代高は生徒や教員の間で学習状況を共有できるソフトウエアを導入。大学教授からもオンライン上できめ細かにアドバイスを受けてきた。この日の発表会では各班の発表終了後すぐに、生徒がスマートフォンで入力した評価やコメントがスクリーンに映し出された。

（佐藤朋紀）